

感染症対策に関する意識調査（7月調査）

福岡市 感染症対策に関する意識調査

■調査概要

・調査目的

市民の感染症に対する予防意識を把握し、今後の感染症対策の推進における基礎資料とする。

・調査手法

WEB調査

・調査期間

2021年7月16日（金），17日（土），18日（日）

・調査対象者，及びサンプル数

福岡市在住の20歳以上の男女 300サンプル

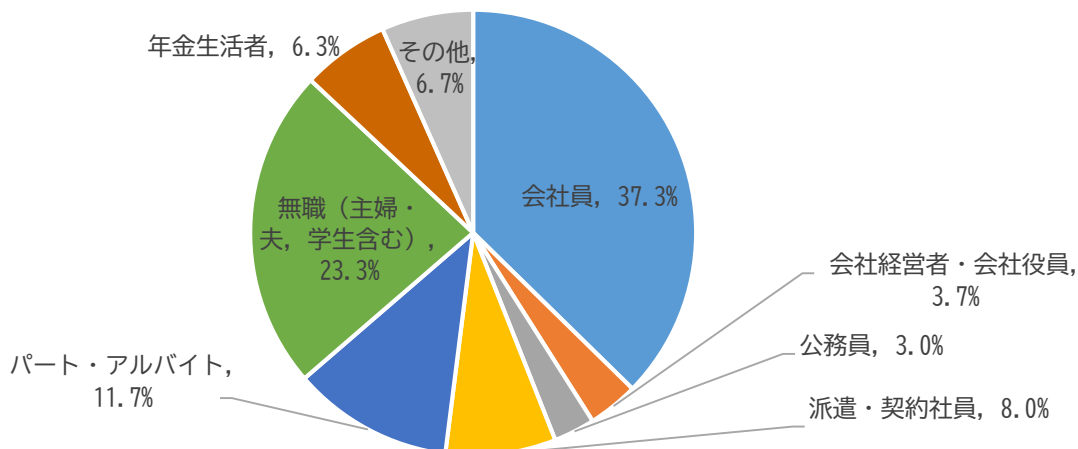
■回答者情報

・性別×年代 n=300

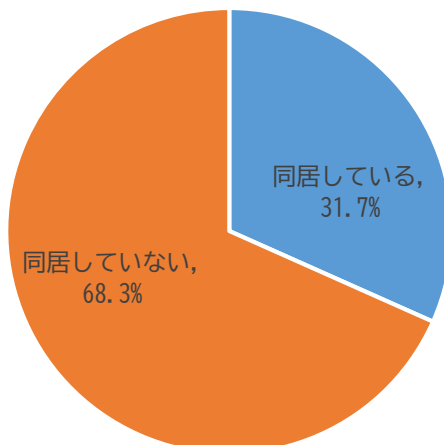
	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男性	30	30	30	30	30	150
女性	30	30	30	30	30	150
計	60	60	60	60	60	300

※性別，年代別に把握するため，各30サンプルずつ割り付け

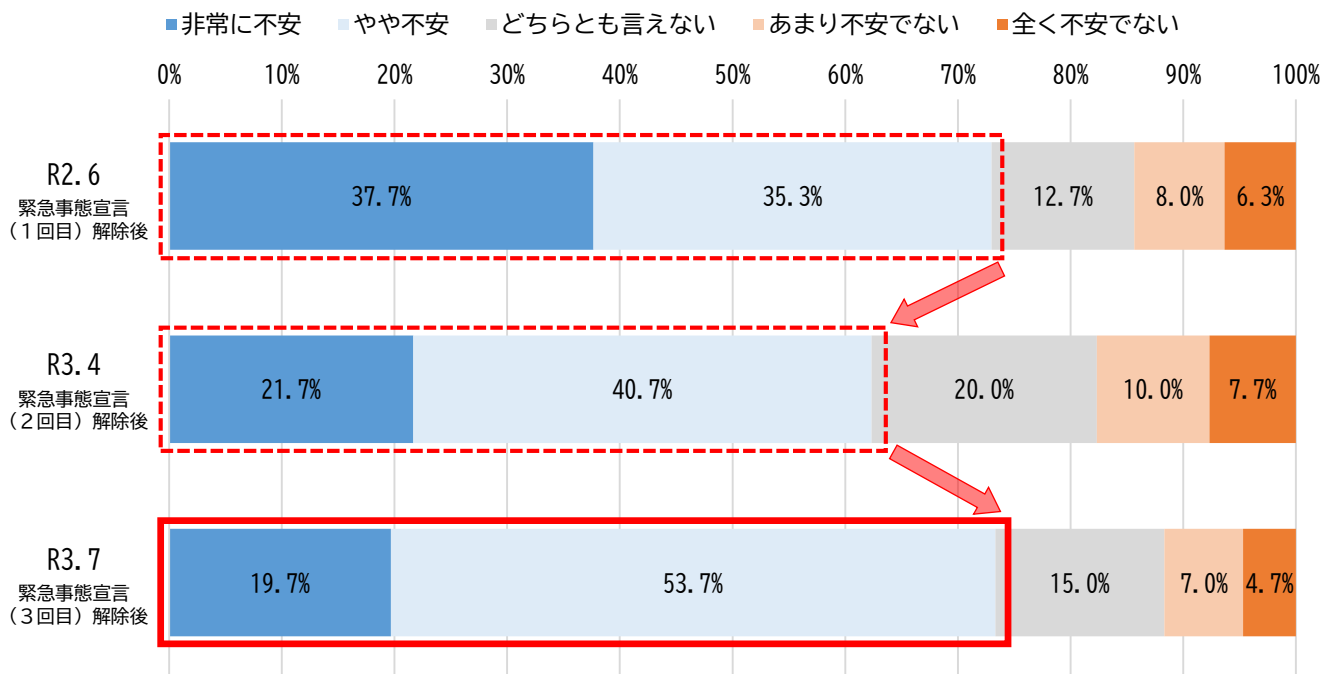
・職業 n=300



・65歳以上の方，または中学生以下の子どもとの同居 n=300

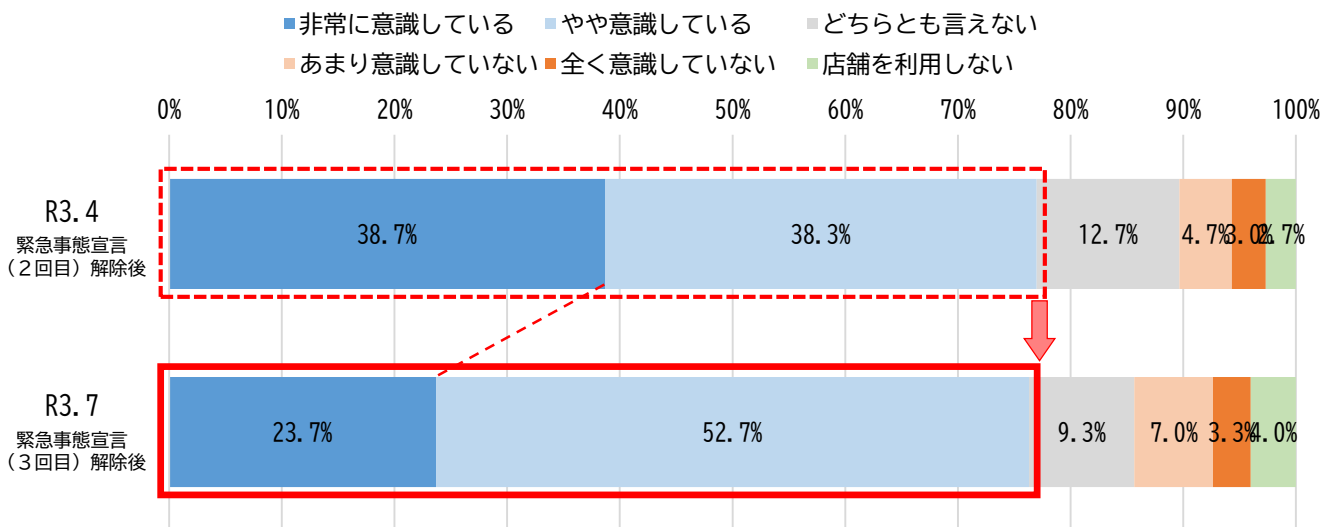


感染症拡大に対する不安については、3回目の緊急事態宣言が解除されたものの、感染症対応の長期化や新規陽性者数の増加等により、4月調査に比べ、「非常に不安」「やや不安」の割合が増加し、7割以上の人不安を感じている。



Q あなたはコロナウイルス感染症の拡大にどの程度不安がありますか。(n=300)

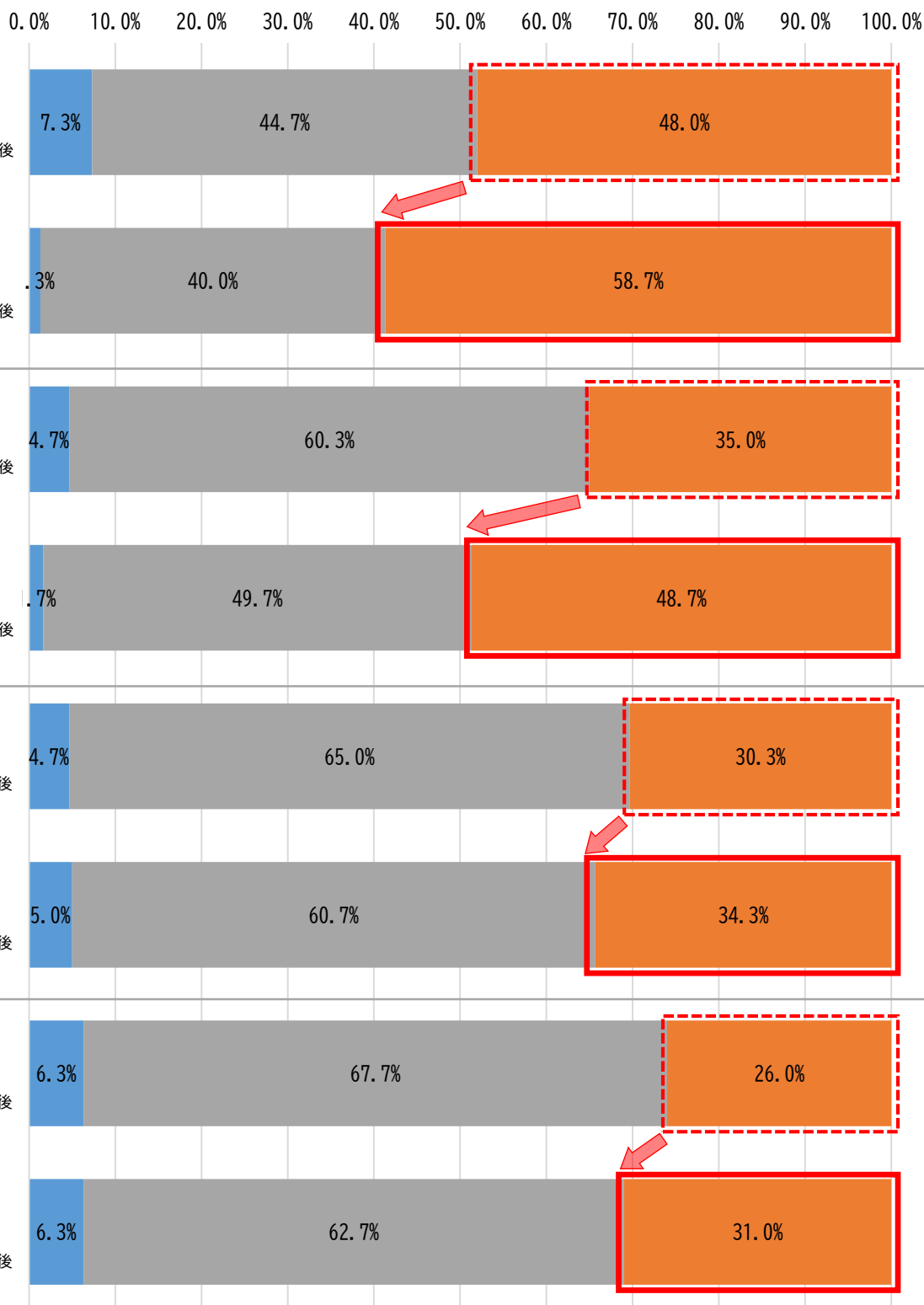
感染予防への意識については、4月調査に引き続き、約8割の方が、感染予防を意識している。また、「非常に意識している」よりも「やや意識している」の割合が増加しており、感染予防が日常生活の中で定着化していることが分かる。



Q あなたは、現在、外出先で店舗を利用する際、「コロナウイルス感染症の感染予防」をどの程度意識していますか。(n=300)

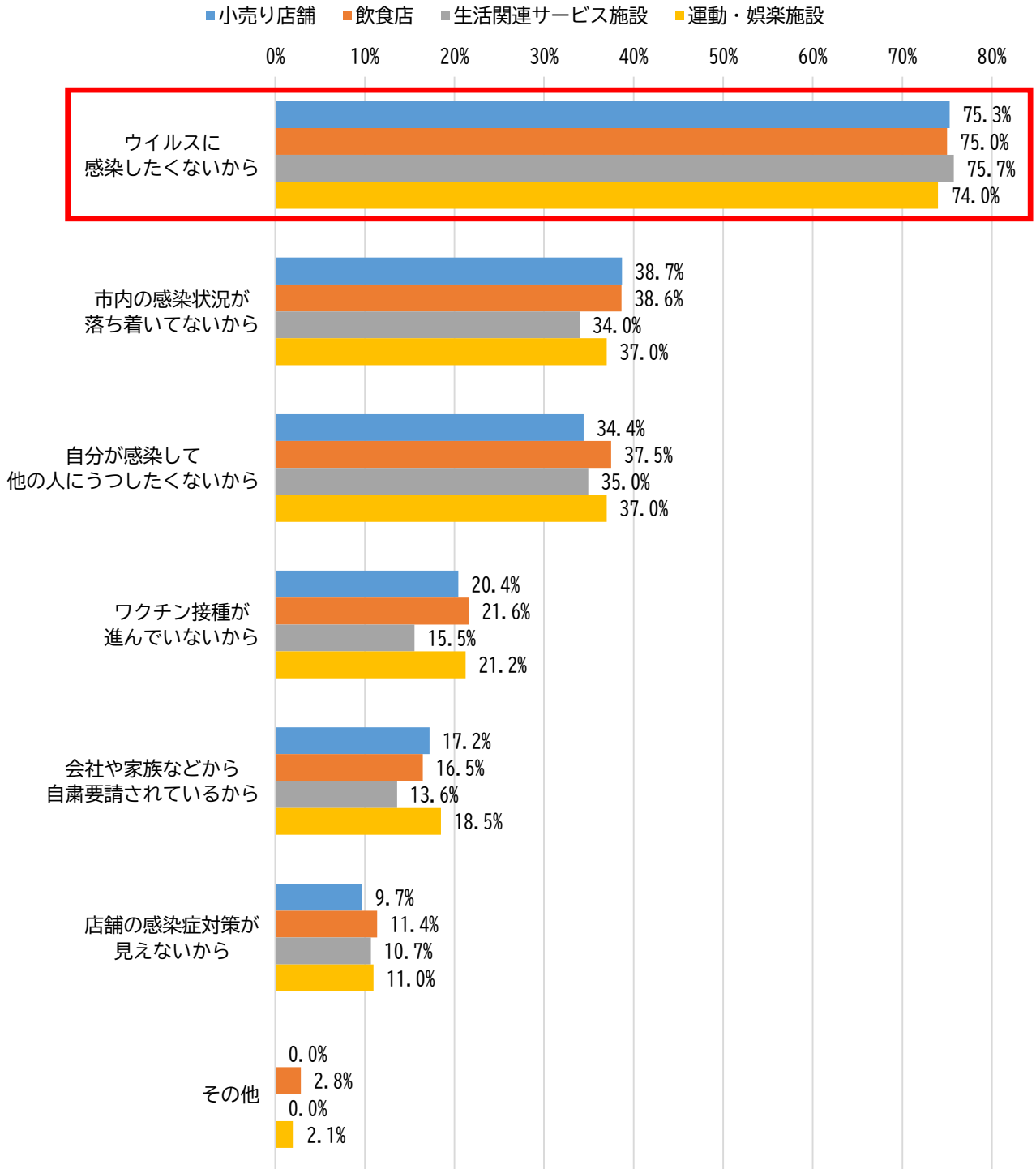
外出して店舗を利用する頻度については、全ての店舗において、緊急事態宣言前と比べ、利用頻度が減少した人の割合が増加している。特に、飲食店については、約6割の人が利用頻度が減少している。

■ 増えた ■ 変わらない ■ 減った



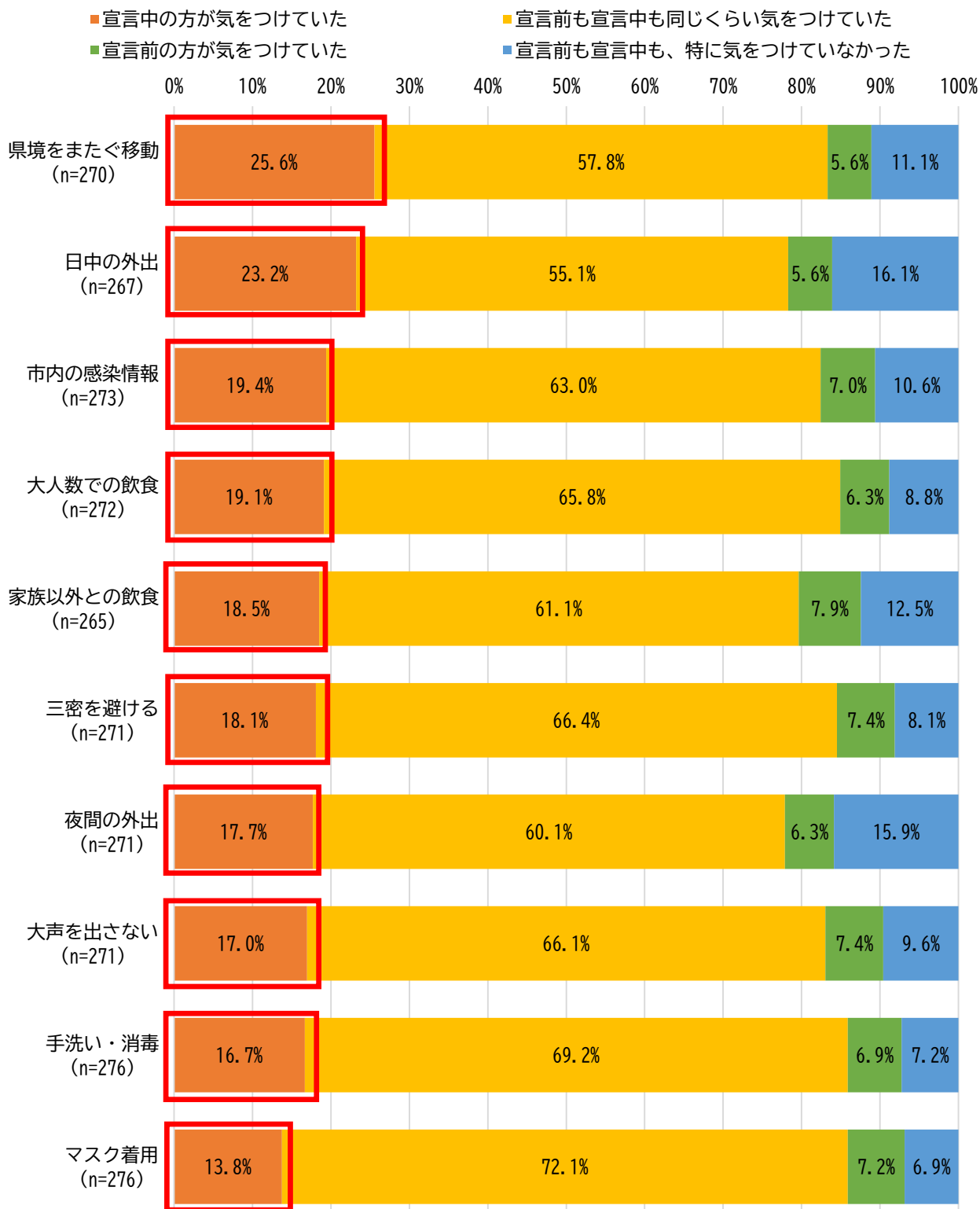
Q あなたは緊急事態宣言前と現在を比べて、外出して店舗を利用する頻度が変わりましたか。店舗別にお選びください。(n=300)

外出して店舗を利用する頻度が減った理由については、7割以上が「ウイルスに感染したくないから」と回答しており、利用頻度の回復に向けては、店舗における感染症対策が重要である。



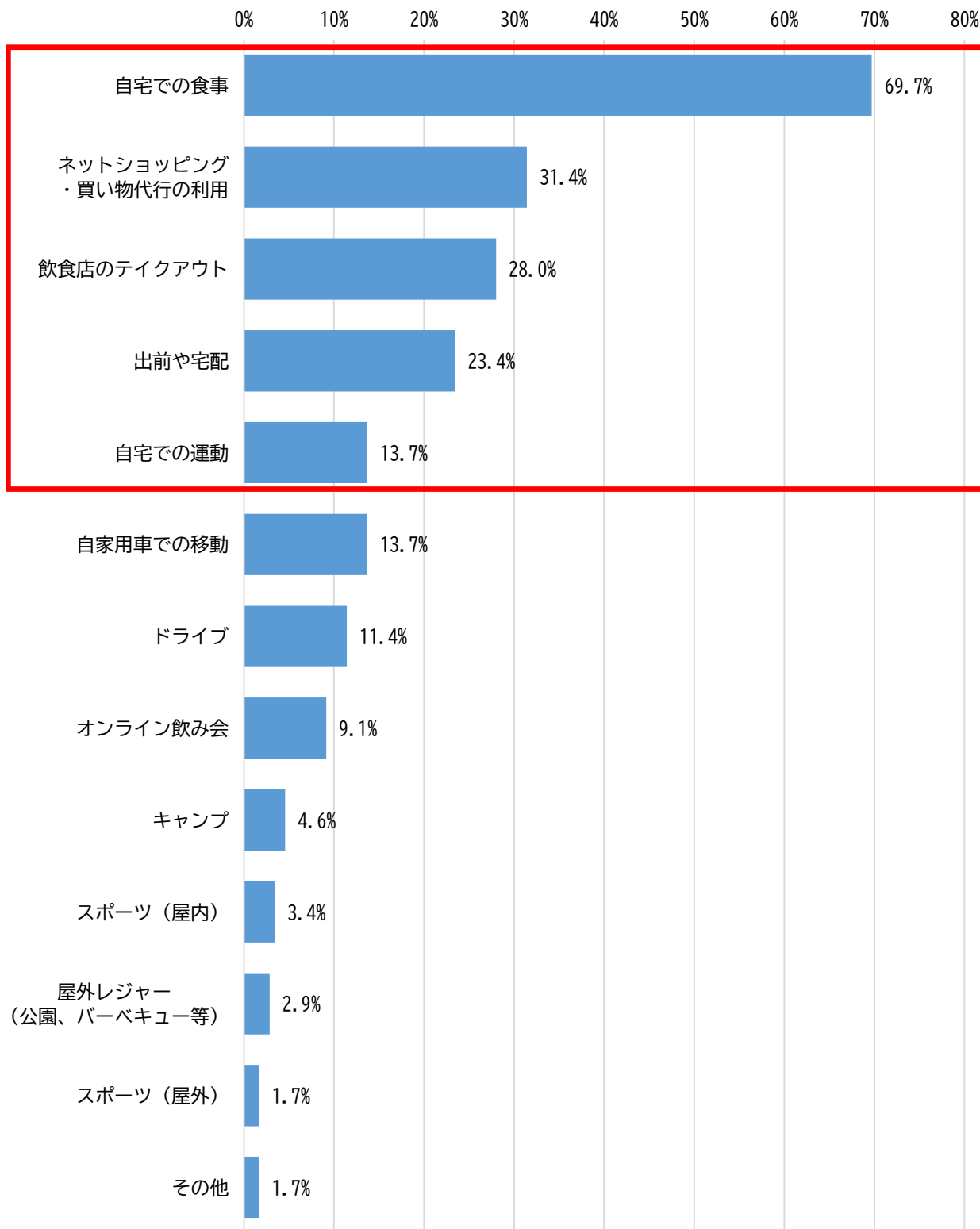
Q 外出される頻度が減った理由を店舗別に全て教えてください。（複数回答可）
 （小売り店舗 n=93, 飲食店 n=176, 生活関連サービス施設 n=103, 運動・娯楽施設 n=146）

緊急事態宣言中の意識や行動については、約2割の人が、感染予防をさらに気をつけていたと回答しており、緊急事態宣言の発出や感染症に関する情報発信等を受け、行動変容にご協力いただいたものと考えられる。



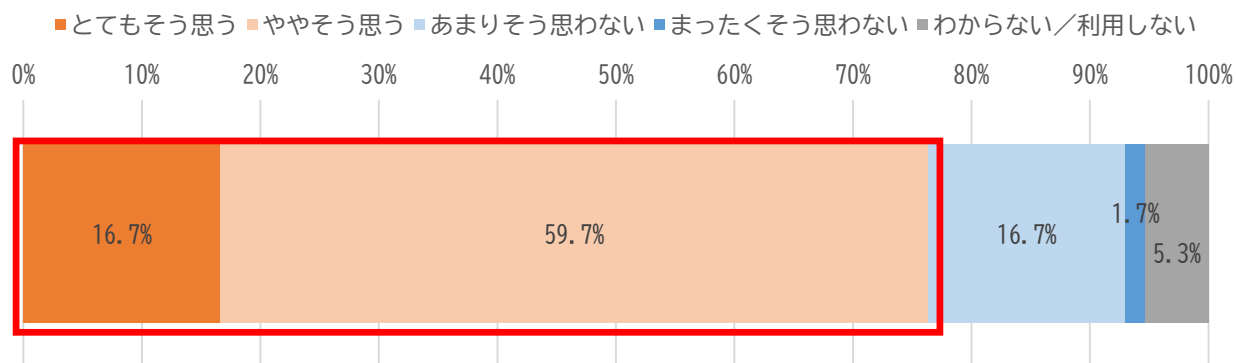
Q 緊急事態宣言が出る前 (R3.4) と比べて、緊急事態宣言中 (R3.5.12~6.20) あなたご自身の意識や行動などについて、あてはまるものをお選びください。

緊急事態宣言中に生活の中で増えたことについては、上位を自宅での行動が占めており、不要不急の外出自粛にご協力いただき、自宅での生活時間が増えたことによるものと考えられる。



Q 緊急事態宣言中（R3.5.12～6.20）に、生活の中で増えたことはありますか。
（複数回答可）（n=300）

普段利用している店舗は感染症対策がされているかについては、7割以上の方が、「とても思う」「ややそう思う」と回答しており、日常生活で利用する店舗において感染症対策が進んでいることが分かる。



Q スーパーや飲食店など普段利用している店舗は感染症対策がされていますか。(n=300)